

水稲直播栽培技術の向上 ～苗立本数確保による収量の向上～

活動対象：旭川市西神楽水稲直播部会 9戸

概要

直播栽培の苗立本数確保および収量向上に向けて、出芽時および湛水後の適切な水管理・生育に応じた窒素追肥等を提案し、実施してもらったことで、目標苗立本数を確保し、目標収量を上回ることができた。

- 苗立本数170本/m²以上確保
 - 収量540kg/10a以上確保
- 目標 7 / 9戸 → 実績 6 / 9戸 (到達度合：86%)
目標 5 / 9戸 → 実績 9 / 9戸 (到達度合：100%)

課題の背景

- 令和元年より直播栽培品種を、「ほしまる」から「えみまる」への全面切替により、苗立本数および収量が向上。
- 苗立本数、収量性は低いもの、栽培管理・生育の個人差が大きく、農業者それぞれが独自の栽培管理を行っている。
- このことから、「栽培管理の高位準化」「天候に左右されない収量・品質の安定化」の技術の確立が必要。

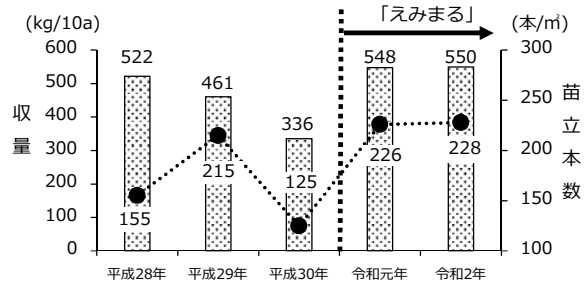


図1 直近5年間の苗立本数および10aあたり収量

活動の経過



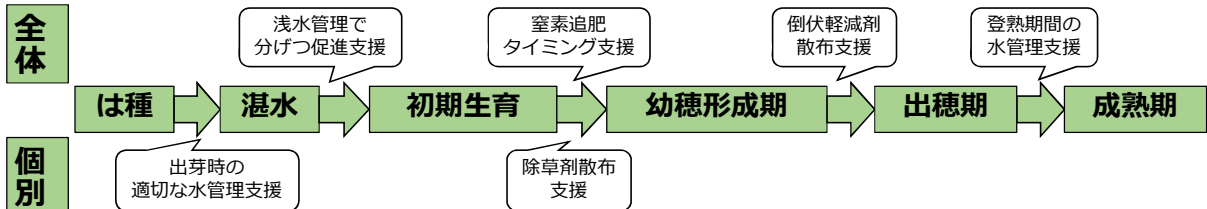
- 聞き取り調査**
- ・ 水管理
 - ・ 肥培管理
 - ・ 防除
 - ・ 収量・品質
 - ・ 要望

聞き取り調査を基に
・ 全体で取り組む項目
・ 個別対応する項目
を整理

- 全体で取り組む項目**
- ・ 窒素追肥タイミング
 - ・ 適切な水管理
 - ・ 倒伏軽減剤の有無
- 個別対応する項目**
- ・ 雑草対策
 - ・ 出芽時の水管理

- ① 苗立調査
② 初期生育調査
③ 成熟期調査
④ 個別巡回

- ① 技術情報配布
② 次年度へ向けた考察・反省点を協議



部会全体・個別で取り組む内容について、調査・技術情報の提供を行いながら収量確保に向けて支援した

活動の成果

提案項目が実践された結果

- **苗立本数**
9戸平均 **192本/m²**
(目標170本/m²以上：目標達成6戸)
 - **収量**
9戸平均 **620kg/10a**
(目標540kg/10a以上：目標達成全戸)
- を確保することができた。

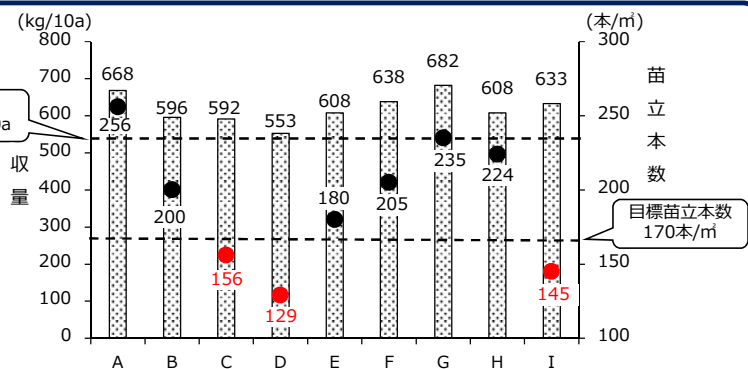


図2 各農業者の苗立本数(●)、収量(棒グラフ)

今後の課題

- ・ 残り3戸の苗立本数確保のための支援が必要。
- ・ 窒素追肥のタイミング、倒伏軽減剤の要不要の見極めについて部会の認識の統一に向けた支援が必要。
- ・ R3年は高温多照年であったため、「天候に左右されない収量・品質の安定」に向け、継続して支援が必要。